

さ え き おおきみ た な か
安芸国佐伯郡大君村 田中家文書 仮目録

広島県立文書館

平成 28 年 (2016) 6 月

凡 例

1 本目録には、安芸国佐伯郡大君村 田中家文書を掲載した。

2 目録の各項目は次のとおり。

請求記号 本文書群の群番号は (200517) と、この項目の記号を組み合わせたものが請求記号になる。

【例】 1 → 200517/1

表 題 資料に原表題のあるものはそのまま採り、ないものは適宜付与し〔 〕書きで表記した。内容等で補記すべきものがあれば()で補った。集合形態をした資料の内訳を示す場合には、頭に“o”を付けた。

年 代 資料に記された作成年月日を探り、推測した場合は()書きで表記した。

作 成 資料に授受関係のあるものは→で結んで表記した。多人数にわたるものは、適宜「外○名」と略記した。

形 態 資料の形態を記した。

数 量 資料の点数を記した。

備 考 資料の状態等、特に留意すべき点があれば適宜記した。

3 文書の配列は請求記号順とした。

4 利用の参考のため、本文書群の概要を冒頭に記した。

【文書群概要】

安芸国^{さえき}佐伯郡^{おおきみ}大君村 田中家^{たなか}文書（請求記号 200517）

堀南湖^{なんこ}作の漢文軸物と、広島高等工業応用化学科の卒業アルバム。

出所 田中家

旧支配 広島藩領

出所地名 安芸国佐伯郡大君村／広島県佐伯郡大柿町大君／広島県江田島市大柿町大君〔現在地名〕

分量 2点（1巻，1冊）

収蔵までの経緯 平成18年1月26日，平成22年4月12日に寄贈された。

年代 寛保元年（1741）と昭和6年（1931）

歴史 田中家は中世には大君の「水軍の武将」で，田中秀正は浅野長晟が広島へ入封する際，能美・山野井氏の指揮下で海路の案内役に当たった。近世になると大君村の庄屋などを勤め（家号大荒神垣内），山野井氏とともに能美島万事の御用向きを蒙り，時々城下へも出勤したという。寄贈者は3代前からの田中家の分家である。

18世紀の初め，田中家の流れと思われる田中翠雲政重が地元で医者となり，その孫の礼文（寄贈者の5代前）が，広島鷹匠町の豊永里美に学び，ついで京都に遊学，吉益東洞の三世北洲に従い，漢方医学のうち古医方^{こいほう}を学び，名声を博したと伝えられる。また，大君村で必明舎を起し，門弟を養育した。

内容 田中礼文と親交のあった広島藩儒・堀南湖（1684～1753）が，広島牛田の風景などを読み込み，寛保元年（1741）12月に作成した漢文軸物と，寄贈者の伯父が所持していた『広島高等工業学校 応用化学部 第九回卒業アルバム』（昭和6年3月）。

検索手段 「広島県立文書館収蔵文書仮目録」

参考文献 『広島県大柿町史—瀬戸内海島嶼村落の歴史』（大柿町教育委員会，1954）

（2015.4.25 記述／西村 晃）

200517/1

[堀南湖漢詩文](牛田など広島
の風景を詠みこんだ
もの)

寛保元.12.

堀南湖正修 題

卷子・1巻

22.7cm×345cm, 8~9字×100行, コピーあり

200517/2

広島高等工業学校 応用化学部
第九回卒業アル
バム

昭和 6. 3.

広島市中島本町穂下写真館(撮
影)

アルバム・1冊
